

保健医療の国際化に 対応する医学教育

—教育環境の国際化と
実践的語学教育を目指して—

国立大学法人
三重大学

1-(1). 人材養成目的の明確化

三重大学の教育目標

- 「感じる力」「考える力」「生きる力」がみなぎり、
地域に根ざし**国際的**にも活躍できる人材を育成する。

三重大学医学部の教育目標

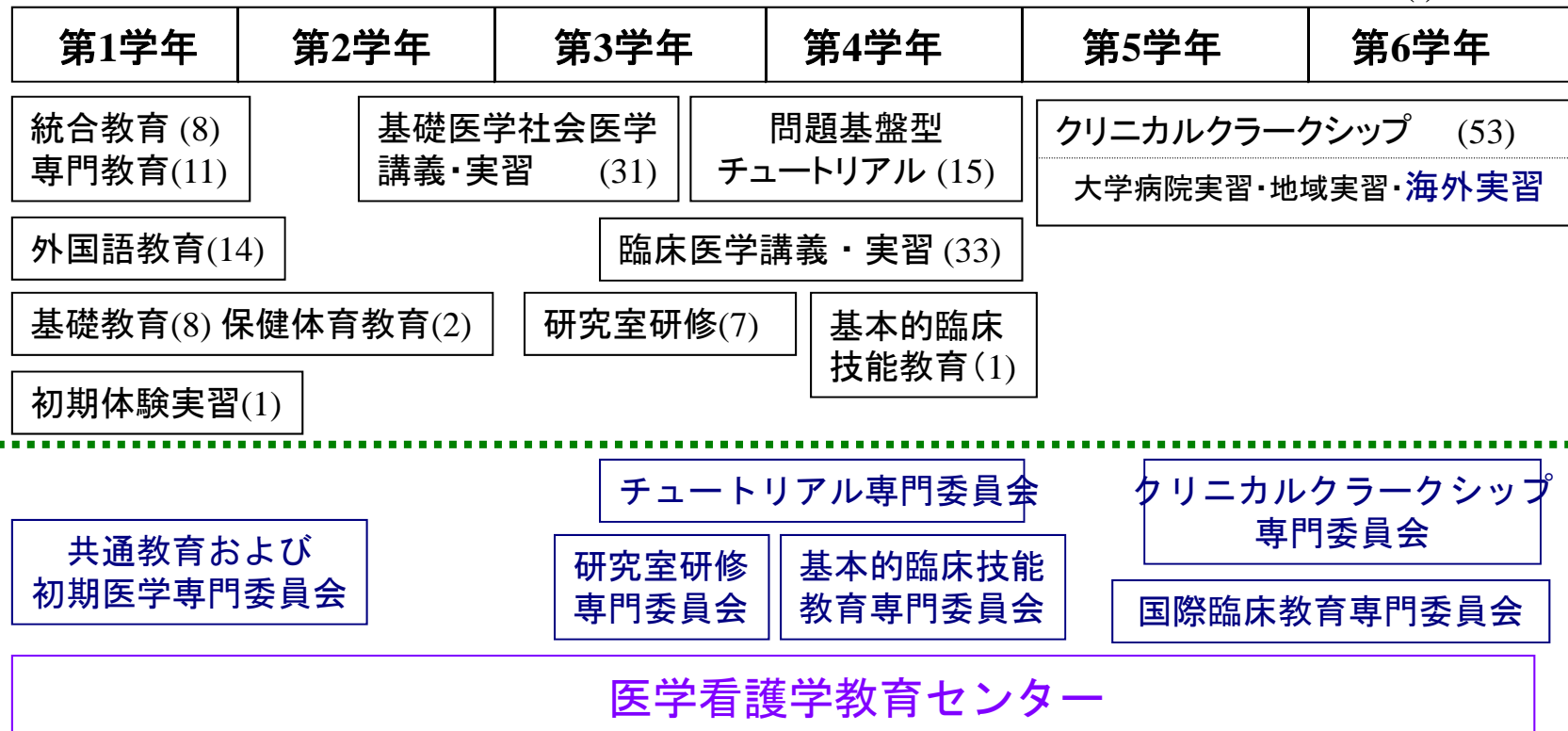
- 確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな想像力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上につとめ、**地域**および**国際社会**に貢献する。
(三重大学医学部規程第1条の2)

1-(2). 成績評価基準等の明示

- シラバスを用いた到達目標、教育内容、成績評価基準、学習資料の提示
- 講座横断的教育活動における教育担当専門委員会の組織
- 専門委員会による事前説明会、観察記録・ポートフォリオ・実技試験・筆記試験による多角的な総括評価と形成的評価
- 医学看護学教育センターによるきめ細かい学生支援

医学部カリキュラムと教育支援体制

() 単位数



1-(3). ファカルティ・ディベロプメントの実施

- 高等教育創造開発センターによる全学的FD
- 医学看護学教育センターによる医学部教員を対象にしたFD
- 学生と教員がともに参加するFD（第3学年学生、第5学年学生）
- 海外交流大学教員によるFD



学生が参加するFD



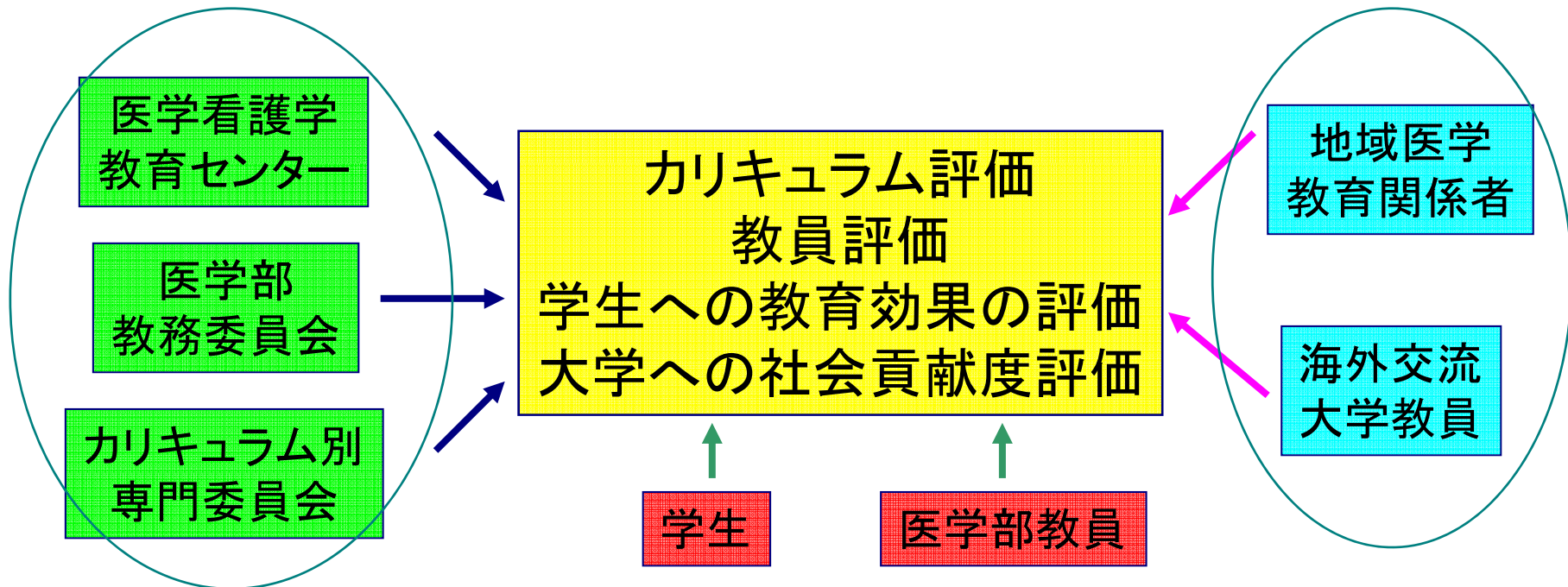
海外教員によるFD

1-(4). 自己点検評価等の実施体制・展開と評価結果の反映

- 授業改善アンケートの実施
- 授業改善アクションのシラバスへの掲載
- 点検評価情報のWEBへの公表
- 学生教員の双方向性評価とフィードバック
- 外部評価の積極的導入

内部評価

外部評価



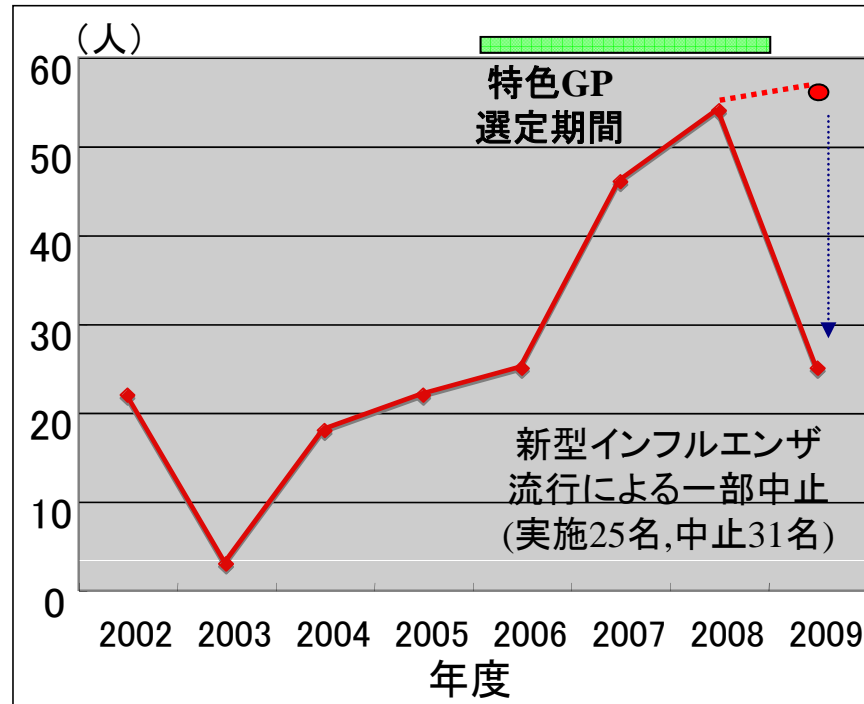
2-(1). 取組の趣旨・目的・到達目標

取組の趣旨

- アフリカをはじめとする**開発途上国**に対する**医療支援**を理解できる人材の養成
- **国を超えて伝搬する感染症**に対応できる人材の養成
- **医療技術革新の国際競争・国際協調**を理解できる人材の養成
- **医学教育の世界標準化**を理解する人材の養成

取組の背景

「平成18年度特色ある大学教育支援プログラム」 海外医学部と連携した臨床医学教育



海外実習参加学生数

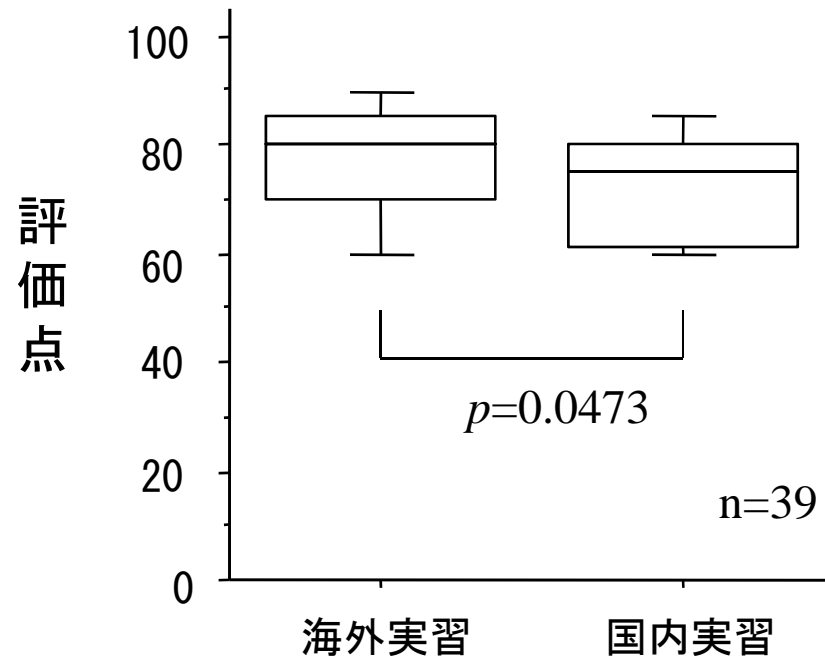


タンザニア・JICAプロジェクト訪問

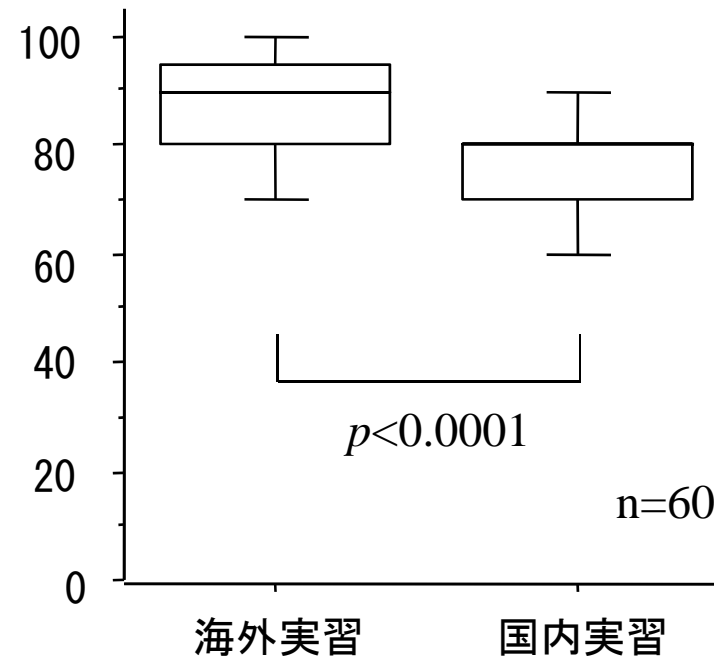


豪州・フライングドクター体験

第6学年臨床実習に対する修学達成度(自己評価)



先進国実習学生



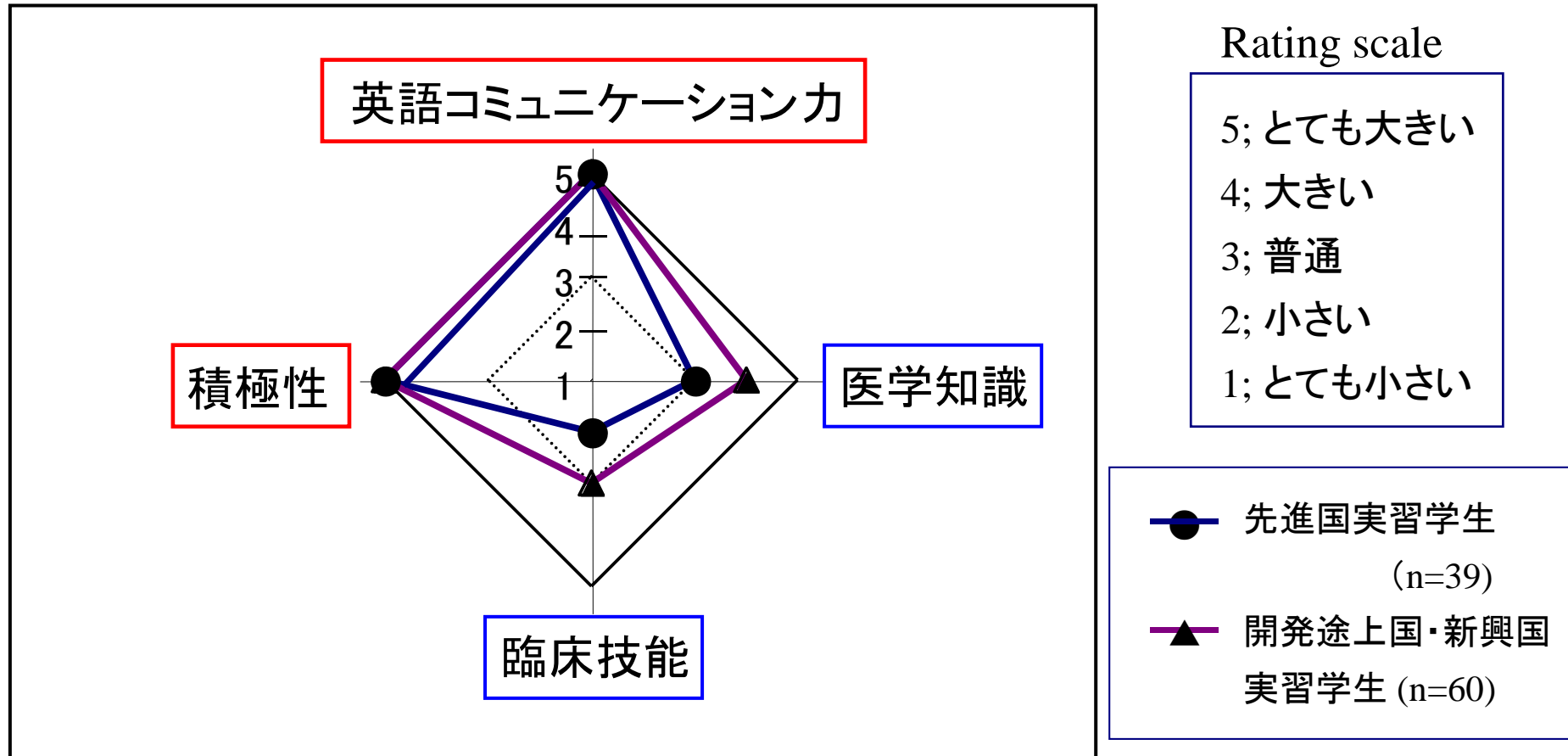
開発途上国・
新興国実習学生

海外臨床実習に対する学生の意見

- 日本の医学教育に対して新しい視点を持つことができた。
- 途上国の保健医療上の課題や世界で日本の医師が果たすべき役割を理解できた。
- 医療は国、地域の気候風土や経済状況により異なることを理解できた。
- 地域の状況に合った地域医療のあり方を知ることができた。
- 結核、エイズ、マラリアなどの診療を経験することができた。



学生自身が考える自らの課題



報告書に記載された課題; 問題解決能力、ストレス耐性、自己管理能力、実践的語学力、コミュニケーション力、国際保健医療の理解、異文化理解

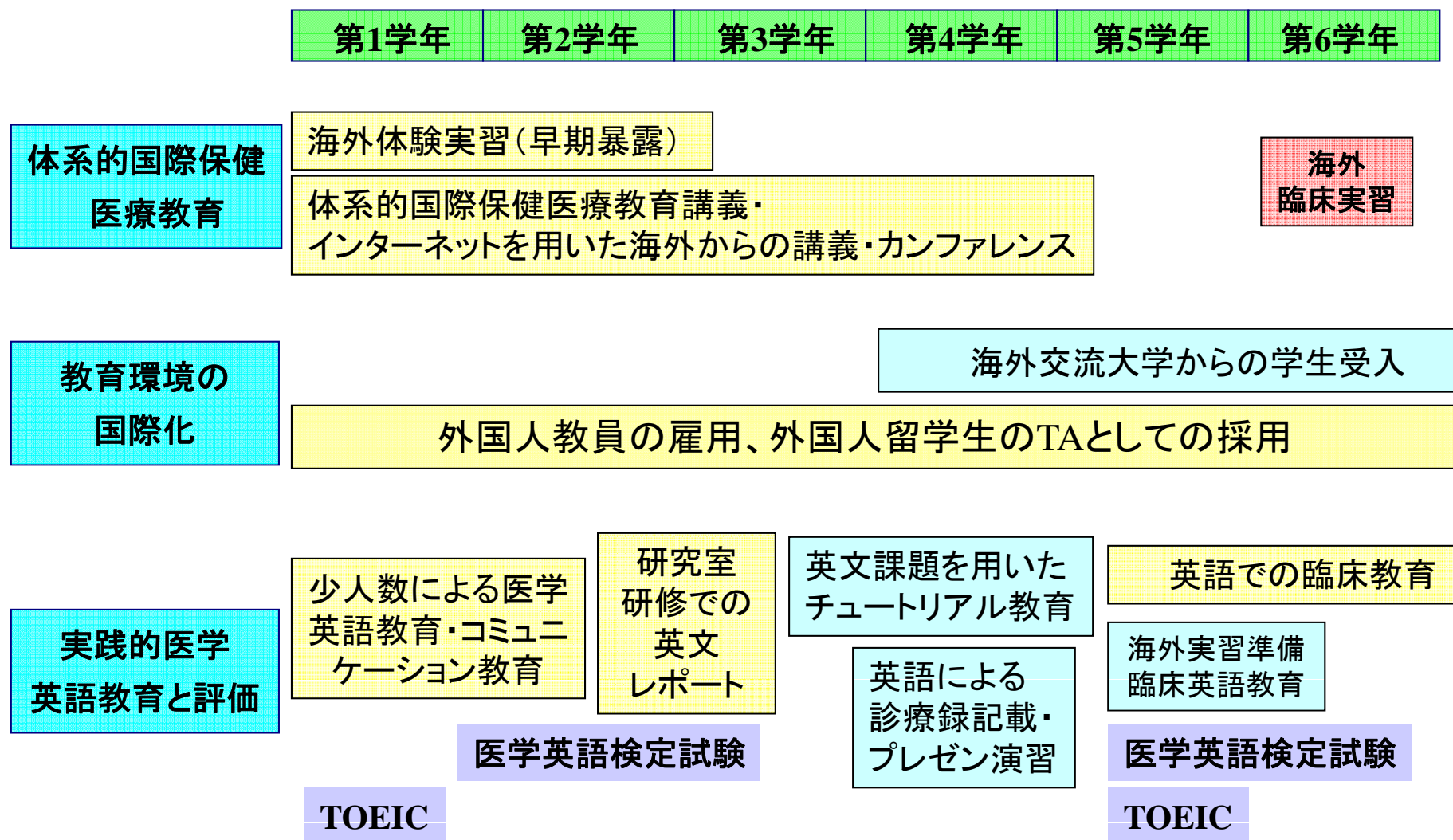
取組の目的

国際保健医療の現場で活躍する人材、国際感覚を持って地域医療に貢献する人材を養成するため、体系的な国際化医学教育を導入し、既に実施している海外臨床実習との連携による高い教育効果を達成する。

到達目標

1. 国際医療保健学について入学後早期から継続して学べる教育体制を構築する。
2. 異文化理解・医学教育や医療の国際化理解を促進する学内教育環境の国際化を図る。
3. 実践的英語力・コミュニケーション力を継続して学べる教育法の導入と教材開発を行う。

2-(2). 取組の具体的内容と実施体制等



□ ; 既に試験的導入を行っている教育内容

■ ; 特色GPで実施した教育プロジェクト

取組内容の特色

- 開発途上国の医療現場への早期暴露による国際保健医療への動機付け教育（第1-2学年）
- 海外交流大学教員によるリアリティーのある体系的国際保健医療教育（第1-3学年）
- 外国人教員・TAによる少人数実践的英語教育・コミュニケーション教育（第1-2学年）
- 専門医学教育での英語教材の積極的導入（第3-5学年）
- 海外からの交換学生受入の拡大による海外学生とともに学ぶ機会の創出（第5-6学年）

実施体制(評価体制を含む)

学内体制

医学部教務委員会

➡ 国際化医学教育専門委員会

医学看護学教育センター

➡ 国際交流部門

三重大学国際交流センター

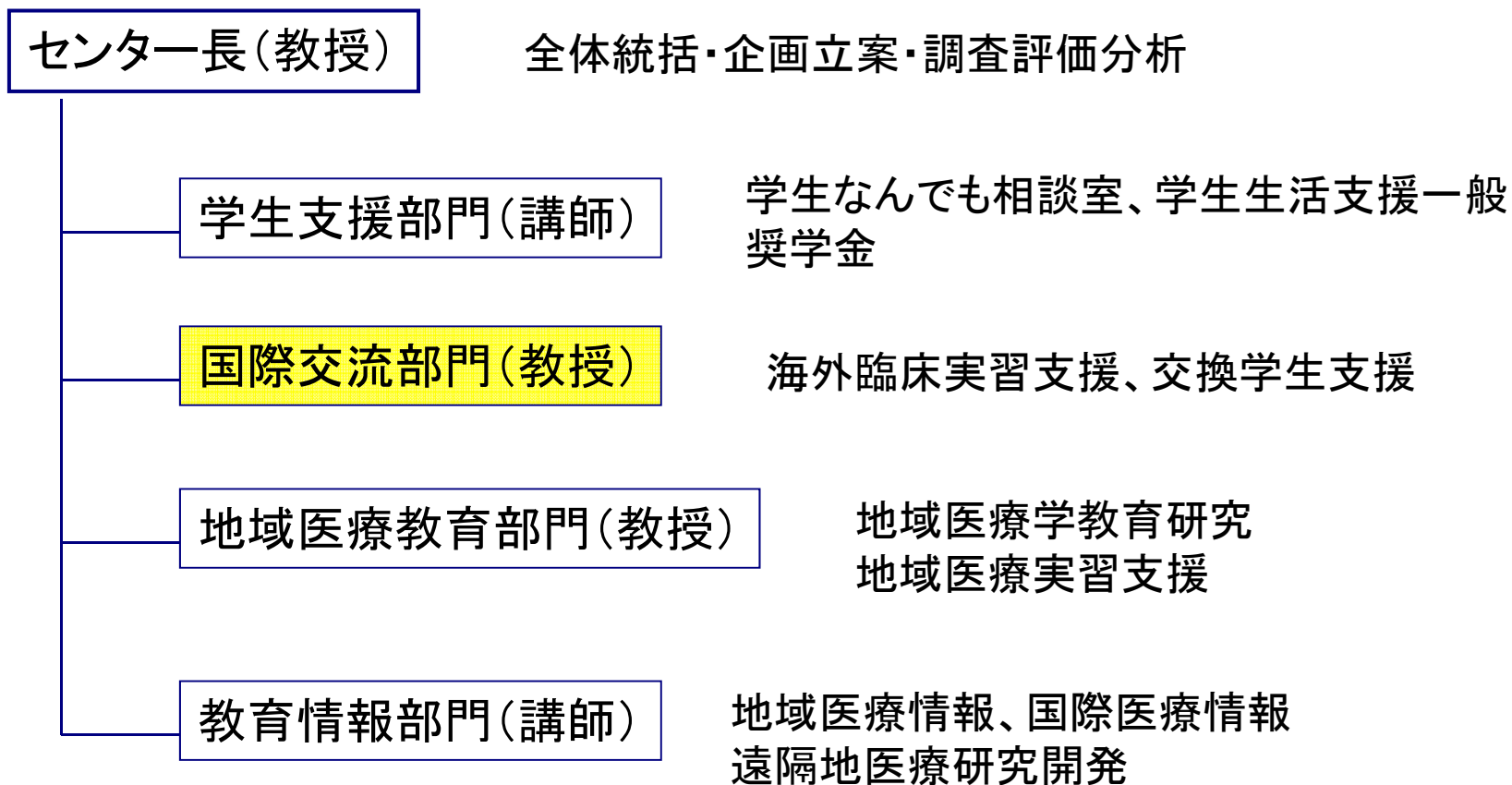
医学部附属病院卒後臨床研修部

学外協力体制

海外交流大学

学生
教員
カリキュラム

医学看護学教育センター



基礎系教育助教 4名、内科系教育助教3名、外科系教育助教1名
産婦人科系教育助教1名、小児科系教育助教1名、地域医療担当教育助教1名

実施体制

2008年度大学院教育改革支援プログラム 「国際推薦制度による留学生教育の実質化」 との連動によるTAの確保

留学生宿舎の整備



実施体制

学部間協定大学との連携

中国

上海交通大学

中国

香港中文大学

タイ

コンケン大学

アラブ首長国連邦

シャルジャ大学

ザンビア

ザンビア大学

タンザニア

ムビンビリ大学

ガーナ

ガーナ大学

ドミニカ共和国

イベロ-アメリカーナ大学

スウェーデン

イエーテボリ大学

イタリア

ペルージャ大学

米国

ウエイン州立大学

米国

ニューメキシコ大学

2-(3). 取組の評価方法・評価体制

〔教育効果に対する評価〕

- 卒後研修部と連携した医学部卒業生の進路、指導者としての活動に関する長期的なフォローアップ
- 医学英語検定試験、TOEICのスコアアップ
- 第6学年海外臨床実習学生に対する海外交流大学教員からの評価

〔カリキュラムに対する評価〕

- 教育カリキュラムに対する学生からの評価
- 教育カリキュラムに対する海外交流大学教員からの評価

〔大学に対する評価〕

- 大学の国際貢献力と国際競争力
- 国際化医学教育の地域への還元
- 教材の開発、取組成果の公表を通じた他大学の教育向上への貢献